

農畜産物輸送に新貨物船就航 内田会長夫妻が命名・進水式出席

北海道産の農畜産物を本州へ輸送する近海郵船(株)の貨物船が新造され、その命名・進水式が昨年10月24日、下関市の三菱重工業(株)下関造船所江浦工場で行われました。式にはホクレンの内田和幸会長と妻の厚子さんが出席し、内田会長が「ましろ」と命名。

船を水面に下ろす「支綱切断」の儀式で、妻の厚子さんが手斧で綱を切断する大役を果たしました。

内田会長は、新船の門出を祝う儀式への主賓としての招待に礼を述べ、「わが国の食料基地である北海道の農畜産物を道外へ運ぶ『安全・安心・安定輸送』の大動脈として、近海郵船の貨物船には大変重要な役割を担っていただいている。『ましろ』が多くの幸をもたらす船となることを心から祈念します」と挨拶しました。

「ましろ」は三菱重工業(株)製で



命名・進水式を終え花束を贈られた内田会長夫妻

総排水量1万1200t。トレーラー161台と乗用車109台の搭載能力を持ち、荒天時の船体動揺を抑える大型フィンスタビライザー・ビルジキールや省エネによる環境負荷軽減に配慮した電子制御式低速ディーゼルエンジンなど、積載貨物を安全に輸送するための最新の機器と荷役設備を備えています。

現在、近海郵船(株)では、苫小牧港から常陸那珂港と敦賀港とを結ぶ二つの航路に合計5隻を配しており、「ましろ」は常陸那珂港への航路に就航する予定です。